

◆ 招聘講師 **フアン・ビジョーロ** Juan Villoro

1956年メキシコシティ生まれ。現在メキシコで最も高く評価されている作家の一人であり、エラルデ賞受賞作『証人』(2004)、『岩礁』(2012)などの長編小説や、『罪びとたち』(2007)などの短編集、サッカーをめぐるルポルタージュ『神は丸い』(2006)、エッセイ集『地球に命はあるのか?』(2012)等、多くの作品を発表している。演劇の分野では、脚本を担当した『部分的な死』(2008年上演)や『人生の哲学』(2011年上演)がラテンアメリカ全土で大成功を収め、現在もメキシコ内外で様々な劇団の活動に協力している。



◆ 招聘講師 **アントニオ・カストロ** Antonio Castro

1969年メキシコシティ生まれ。ハミルトン大学演劇専攻で学び、ラモン・デル・バリェーインクラン作の『The Gala of Death』の演出で佳作を授賞。1995年にゴンブローヴィッチ『結婚』を演出し、様々な優秀演出家賞にノミネートされる。今までに、“La jornada semanal”や“the magazine Letras libres”にて文芸記事を執筆している。2009年より the National System for Creators of Art のメンバーである。国内外の様々なフェスティバルにて演出作品を発表している。主な演出作品に『Self-accusation』(ペーター・ハントケ作)、『声』(ジャン・コクトー作)、オペラ『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』(ドニゼッティ作)など。



7/3 (日)  
芸能花伝舎

19:00~21:30 レクチャー「メキシコにおける演劇あるいは文学の現在」

【講師】フアン・ビジョーロ/アントニオ・カストロ 【ゲスト】寺尾隆吉(ラテンアメリカ文学研究/翻訳)  
メキシコ演劇といえば、日本演劇史との関わりで言えば佐野碩と言う名前が浮かんでくるが、いま行われている現代メキシコ演劇に触れる機会はほぼない。劇作家フアン・ビジョーロ氏と演出家のアントニオ・カストロ氏による、それぞれの活動報告を中心とした、現在のメキシコ演劇あるいは文学の現在についての報告。

19:00~21:00 リーディング&トーク『雨についての講演』

【作】フアン・ビジョーロ 【演出】山下由 【出演】丸尾聡  
◎リーディング作品『雨についての講演』(Conferencia sobre la lluvia, 2013年8月初演)  
「雨と詩」というタイトルで講演することになっていた文学マニアが、登壇した途端に原稿を忘れてきたことに気づき、一瞬パニックに陥るものの、何とか気を落ち着けて即興で話を始める。

7/4 (月)  
セルバンテス文化センター

7/5 (火)  
芸能花伝舎

19:00~21:30 レクチャー「演劇と言語」「古典と新作」など

【講師】フアン・ビジョーロ/アントニオ・カストロ 【ゲスト】吉川恵美子(ラテンアメリカ演劇研究)  
演劇の一つの役割として「言語」における統治や教育という側面がある。演劇が用いる言語が持つ政治性、暴力性、侵略、統治に無意識でいることはできない。メキシコはスペイン語圏であるが、メキシコにおいてスペイン黄金時代の戯曲あるいは、広く言えば西欧における古典戯曲はどのように扱われているのだろうか。

14:00~16:00 「アントニオ・カストロ氏の演出作品紹介」

18:00~21:30 シンポジウム「誰が観客(読者)か」

7/6 (水)  
芸能花伝舎

【パネラー】フアン・ビジョーロ/アントニオ・カストロ

【ゲストパネラー】市村作知雄(フェスティバル/トーキョーディレクター)、長島 確(ドラマトゥルク/翻訳)

演劇や文学においてそれらの社会的意義やパブリック性が問われるとき、そもそも「社会」や「パブリック」をどのようなものだと、また、それらを構成している構成員を誰だと考えて(前提して)いるのだろうか。「誰が観客(読者)か」というシンプルな問いを立てることで、それぞれの地域性や、グローバリズムの中にある共通の基盤などを巡りながら、芸術の意味や意義について議論する。

【参加費】1000円(1日) 協会員:500円(1日) ※7月4日(月)のリーディング公演のみ特別無料

【お申込み方法】お申込みはメールにて ①お名前 ②連絡先(電話番号、メールアドレス)をお送り下さい。

一般社団法人日本演出者協会「メキシコ特集係」(担当:川口) Email: over.hny@gmail.com TEL: 090-1016-7092

国際演劇交流セミナーとは

1990年代より、近隣の韓国、中国の演劇人との交流、さらには東アジアの国々と演劇交流をかさね、1999年からは文化庁による本格助成の下、通年で開催するようになり、世界各国の演劇人を講師として、ワークショップ、レクチャー、シンポジウム、リーディング等を開催しています。これまでに、アジア、ヨーロッパ各国より多くの演劇人を招聘してきました。今後も「世界の演劇人との交流」、ひいては「国際的視野を持つ日本の演出家、及び劇作家、俳優の育成」を目的に、様々なセミナーを実施致します。

2016年度セミナー予定(全7回)

- ①メキシコ特集(フアン・ビジョーロ、アントニオ・カストロ) 7月 in 東京
- ②アフガニスタン特集(ヤルマー・ホルヘ・ジョーフリー=アイヒホルン) 7月 in 東京, in 金沢
- ③韓国特集(バク・クニョン) 8月 in 東京, in 松山
- ④マカオ・香港特集(陳飛雁/フィリップ・チャン、陳焯威/オクタヴィアン・チャン) 9月 in 東京, in 札幌
- ⑤ウェールズ特集(ジル・グリーンハーフ) 10月 in 東京
- ⑥イギリス特集(シャロン・カノリック、スチュワート・メルトン) 11月 in 東京, in 豊橋
- ⑦ロシア特集(ユリー・エリョーミン) 2016年1月以降 in 東京, in 名古屋